

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500078		
法人名	医療法人 みずほ会		
事業所名	グループホーム なかとさ		
所在地	高知県高岡郡中土佐町上ノ加江706-1		
自己評価作成日	令和元年6月28日	評価結果 市町村受理日	令和元年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を心掛け、地域住民として暮らしていけるよう地域の行事等に参加することを大切にしています。保育園や小中学校、地域の運動会の案内をもらい、敬老席も設けてくれて、見学に出かけています。地域の敬老会や盆踊りにも参加させてもらっており、顔馴染みの人たちが声掛けをしてくれたり、自分たちの席に招いてくれたりして、地域の一員として接してもらっています。施設主催の秋祭りには、昨年もたくさんの地元住民やボランティアの協力があり、賑やかに催すことができました。利用者も全員で歌を披露しました。今後も積極的に町内に出て行き、地域との交流の場を広げていきたいと思っています。

周りは静かな田園地帯ですが、畑で作業中の地域住民が声を掛けてくれたり、作物を届けてくれます。「いつも賑やかでいいですね」と言われます。職員、利用者共に楽しく、笑い声の絶えない事業所を目指し、今後も努力していきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosvoCd=3992500078-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	令和元年8月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域には古くからの町並みが残っており、高齢、過疎化が進んでいる面もあるが、そのなかで事業所は福祉の社会的資源として貴重な役割を果たしている。利用者は散歩や外出、秋祭り等の各種行事への参加を通じて、地域の人々と顔見知りになっており、見かけたら住民から声掛けがあるなど、地元に着している。

管理者は自分の親を入れたい事業所にしたいという思いを持って、職員と一緒に利用者の気持ちを考え、ここにいて楽しいと思える事業所づくりを目指している。利用者は毎日のレクリエーションに元気に参加し、笑い声が絶えない。管理者の目指す、アットホームな雰囲気になった事業所である。

開設当初からの職員も多く、管理者との意思疎通が良くできている。また、研修等にも積極的に参加し、職員全員が介護福祉士の資格を得ている。医療機関との連携もよく、看取りに関しての処遇を評価されたこともあって、それが職員の自信になっている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は開設当初から変更なく、開設時からの職員も多く、理念に基づいたサービスの提供を心掛けている。いつでも理念を振り返れるよう、ホールや休憩所などに掲示している。	法人理念、事業所理念に基づく年間目標を掲げている。今年度は、「みんながいるから楽しい」「仲間がいるから前進できる」事業所づくりを目標としている。毎年3月に職員に募り、全員で考えた目標を掲げ所にして、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週木曜日はモーニングの日とし、近所の喫茶店に出かけるようにしている。散歩コースの道路沿いには四季折々の花が咲き、世話をしている地域住民が飾ってくださいと持って来てくれている。	町内会に加入し、盆踊り、敬老会等の行事に参加している。事業所の秋祭りには地域から100名程の参加がある。クリスマス会では地元中学生が準備を手伝い、ハンドベル演奏等で交流している。利用者は、日常的に住民と顔見知りになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの介護相談などもあり、他施設を紹介したり、アドバイスを行っている。毎年町社協主催の権利擁護の研修劇に出演し、事業所を知ってもらう機会を設けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況、事故、研修、行事報告を行っている。消防署員、公民館長、民生員、地域住民、家族と多種多様の外部の人に参加してもらっており、終了後には身体拘束適正化委員会も開催している。	運営推進会議には、行政職員のほか、駐在所、家族、消防署など多方面の関係者が出席し、様々な意見交換をしている。記録簿は玄関で閲覧でき、家族には近況報告と共に郵送している。身体拘束適正化委員会も同日に開催し、出席者と理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、事業所の実情を伝えており、相談や連絡が気軽にできる関係ができています。地域住民から相談を受けたことを地域包括支援センターに連絡したりと、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	町担当職員とは運営推進会議等で顔見知りになっており、相談しやすい関係を築いている。町からの認知症カフェへの協力依頼を引き受け、町に要望して、理学療法士等の専門職の派遣を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所運営規程で身体拘束は禁止しており、夜間は防犯上やむを得ず施錠しているが、早出勤務者が出勤した時点で開錠している。身体拘束適正化研修を定期的に行い、職員に周知徹底している。	事業所では身体拘束に該当する事例はなく、言葉での拘束が起きないように、職員同士でケア方法を話し合っている。虐待防止研修会、認知症課題共有会、権利擁護研修会等への参加を通じて、職員全員が身体拘束や権利擁護への理解を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法などの内部研修を行い、虐待防止の強化を図っている。職員間では何でも話し合う関係が保たれており、職員のストレスがたまらないよう管理者が声掛けをし、話を聞くように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護や成年後見制度などの研修に参加し、制度を理解して、スタッフ会で共有している。町社協主催の権利擁護研修劇に出演して、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い、家族の理解と納得を得たうえで契約を結んでいる。改定時には書面や電話連絡で説明し、理解と納得を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を年2回以上開催し、家族だけの話し合いの場を設けて、意見や苦情を集約し、運営推進会議にも報告している。県外在住の家族にも、年に数回の帰省時には必ず話しを聞くよう努めている。玄関には意見箱も設置している。	家族会開催時は、常に5、6組の家族が参加している。家族とは常に電話やメール、手紙等で連絡を取り合っており、思いを把握できている。家族からは、不満等はなく、事業所に最期までいたいという声が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会や担当者会で意見を出し合うことで、運営に反映している。日々の業務の中でも、気づきがあれば職員は管理者に意見を伝え、次のスタッフ会で検討するようにしている。急を要するときには、臨時で開催することもある	スタッフ会や介護計画の担当者会で職員からの意見を聞くほか、毎日の暮らしの中でケアについての提案や意見等を聞いており、その都度対応している。検討事項があれば、スタッフ会等に上げて、全員で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有資格者と無資格者では雇用体系が違ってくる。現在介護職員6名全員が介護福祉士の資格を持ち、パート職員2名も有資格者である。資格取得には母体法人からの援助があり、合格すれば費用は全額給付される。これを利用して、3名が資格を習得している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を職員に配布し、希望する研修伺い書を提出して認められれば、研修費用も母体法人が負担し、研修日も勤務扱いとなる。昨年は実践者研修に1名が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人内の各施設の管理者が月に1回集まり、状況説明や意見交換を行っている。近隣の老人保健施設に面会に出かけたり、また面会に来てくれることもあり、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で聞き漏らしたことなど、入所後も本人の希望や要望を傾聴し、本人の望むことを少しでも実現させることで、安心できるように努め、より良い関係づくりに努めている。聞き取った内容は記録に残し、職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時には話をよく聞き、希望を受け止め、信頼関係を築いている。入所後も面会時などの機会にコミュニケーションをとり、家族の気持ちを受け止めて、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に相談を受ける際には、現在の状況を十分聞き取り、早急な対応が必要な場合には、母体法人内外の施設と連絡をとり、利用できる場所を紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は事業所を家と考え、家族の一員として、利用への言葉かけに配慮している。アットホームな雰囲気を大切にしながら、お互いが助け合って生活していると思ってもらえるよう、自分ではできないことはやってもらって、暮らしを共にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には、家族と利用者が共に楽しく過ごせる空間づくりを心掛け、いつでも気軽に来てもらえるように常に配慮している。家族には「いつ来ても職員の声掛けが気持ちよく、気兼ねなく来やすい施設ですね」と言われている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事には積極的に出かけていき、利用者が顔見知りの人との会話ができる機会をつくっている。年に数回のふる里外出支援も行っており、本人の馴染みの場所にも出かけるようにしている。	2ヶ月に1回程度、ふる里外出支援を行い、利用者にとって懐かしい場所を訪問している。時には利用者宅の草引きをすることもある。旧知の人に会って会話するなど、利用者の馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの認知症レベルや性格を理解し、交流が図れるような場所づくりや関係性を保ちながら、共に生活できるように支援している。孤立することがないよう、配席の配慮などの工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設や病院に面会に出かけたり、年賀状を送るなどして、関係を保っている。長期入院で退所した利用者が、退院後再度入所申し込みを行うなどの事例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のできる利用者からは話しを聞き、職員全員で話し合っ、できるだけ本人の意向に沿える環境づくりを支援している。意思疎通が困難な利用者は、表情などから読み取るとともに、家族から情報を収集するほか、職員間で気付いたことなども共有できるように記録に残している。	会話ができる利用者からは、話しの中から意向を把握し、会話が困難な利用者には話しかけた際の反応や表情から意向を汲み取っている。そのときの仕草や状況はケア記録にとって保存し、介護計画に役立てるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には本人、家族、それまでの担当ケアマネージャーなどから本人の生活歴や趣味などを聞き、把握に努めている。家族とも話しやすい関係性を築いて、在宅中の話しなどを聞き、サービスに活かせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会や月末評価などで利用者の現在の細かい変化も把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月末評価を実施し、3ヶ月毎にモニタリングして、担当者会を開催している。家族からは電話連絡や面会時に意向を聞き取り、介護計画に反映できるよう取り組んでいる。介護度に変更があったときや、退院時などには、その都度見直しを行っている。	各利用者の担当者がケアチェック表をもとにモニタリングを行い、事前に家族の意向等も聞き取り、管理者、担当職員で担当者会を開催して、ケアプラン案を作成し、スタッフ会で周知している。3ヶ月毎の定期的見直しのほか、利用者の状態に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	散歩中の会話や入浴時の様子など、利用者の日々の様子や変化、職員の気付きは細かく記録で残すようにしている。また、申し送りノートを活用して職員間の情報共有を図り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて受診支援や帰宅支援、買い物支援などに柔軟に対応している。自宅の草引きなどにも同行して、一緒に作業を手伝い、安心してもらった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所秋祭りでは地域住民の協力を得て、毎年賑やかに開催できている。毎月美容師の来訪があり、周囲の草刈りも職員の家族が自主的に行ってくれたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認を行い、月2回事業所での協力医の往診があることを説明して、選択してもらっている。歯科も往診で対応できるようにしている。他の医療機関への受診は原則家族対応だが、家族の状況に応じて職員が対応している	利用者、家族の希望で利用者全員が協力医をかかりつけ医として、月2回の往診を受けている。往診結果は、採血結果や投薬内容と一緒に家族に送付している。皮膚科等の専門医は原則家族対応だが、場合により管理者が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護があり、書面や口頭で相談して、適切な助言を得ている。訪問看護時の記録は主治医にファックスし、医療との連携を図っている。利用者の状態に変化があるときには、看護師と24時間連携が取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人が安心して療養できるよう、入院先には情報提供を行い、カンファレンスにも参加するほか、職員も可能な限り面会に行き、本人のストレス回避に努めている。家族の状況によっては、職員が代行して、医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応や看取りについては、入所時に指針の説明をし、本人重度化の際には本人や家族の思い、希望を尊重した支援をしている。同時に事業所での医療対応の限界も説明し、理解を得たうえで対応している。協力医や訪問看護ステーションと連携して、チームで支援に取り組んでいる。	本人重度化の際には、家族等が希望すれば看取りを行っている。看取りにあたっては、協力医や看護師、家族との連携のもとに、安らかに最期を迎えられるよう努めている。最初の看取りの処遇を医師から褒められたことで、職員には自信がついている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については常に職員と話し合いを持ち、慌てず対応するよう指導している。事故発生時のマニュアルも事務所の壁に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心として、常に災害に対する職員の意識付けをしている。防災訓練は定期的実施しており、消防署の立ち入り検査も受けている。火災時や風水害時には地域住民の協力は得られるが、地震時には協力が得られないと考え、常日ごろから訓練を行っている。	年2回の火災訓練と、抜き打ちの地震、津波避難訓練を実施している。地震、津波訓練は夜勤帯に行い、問題点を検討している。避難経路を確定し、火災訓練は発災場所を変えている。ライフジャケットを用意し、備蓄食料等は、浸水を避けるため近隣の高台にある管理者宅の倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には生活全般における利用者のプライバシー保護、個人情報の保護を徹底し、本人を尊重した声掛けを行って、対応している。	職員は利用者の個性を尊重して、利用者の生活歴、職歴にも留意し、本人の尊厳を損なわないよう接している。利用者が愛称で呼んでほしいという以外は名前で呼び、事業所だより等で写真を掲載する際には、利用者、家族の許可を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や言葉をしっかり感じ取り、自己決定がしてもらえる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に自由に生活し、過ごしてもらえるよう個々のペースに合わせて食事やゆっくり摂れるよう支援している。毎日決められたことをするのではなく、楽しく笑顔で過ごせるよう、希望に沿ったケアの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類のサイズ変更などは職員が家族に伝え、自分で着替えが選べない利用者にも、これでいいのかの確認を行っている。ほころびや場単の取れている物も職員が修繕し、身だしなみが保てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の管理栄養士の献立に沿って配達された食材で職員が調理し、提供している。自立している利用者には出来ることを手伝ってもらい、野菜の下ごしらえや、配膳、下膳などを願っている。	母体法人の管理栄養士が作成したメニューに従って配達される食材等で職員が調理し、提供している。週1回は事業所独自の、利用者の好みを取り入れた食事を提供している。利用者も、下ごしらえ等できる範囲で手伝い、職員と一緒に楽しく食事している。	食事は、暮らしの中で楽しめる大切な時間帯なので、定められたメニューにこだわることなく、できるだけ地元で採れた旬の野菜なども使用して、独自の食事バリエーションがより多く持てる工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に沿って、栄養バランスをとっている。刻み食等の個々に応じた食事形態を提供し、水分補給も記録して、職員間で情報を共有している。日中の摂取が少ない利用者には、夜間帯にも水分摂取を促す工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には声掛けを行い、口腔ケアを促している。自力でできない利用者は口腔ティッシュや口腔スポンジを用いて清潔保持に努めている。利用者の口腔内を確認し、洗い残しがあればその都度支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんど全員の見守りや排泄介助を行っている。日中は全員トイレで排泄できるよう、支援している。尿意の訴えや行動のできない利用者は、チェック表で管理して定期的なトイレ誘導を行っている。	利用者全員排泄時の見守りが必要である。おむつ使用者はなく、ほとんどの利用者が、リハビリパンツと尿取りパッドを併用している。排泄の意思表示ができる利用者もいるが、日々のチェック表を見てトイレ誘導をし、排泄量を記録している。現在の自立レベルが落ちないように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を心掛け、歩行訓練や腹部マッサージを行っている。排便のないときには、個々のペースを見て緩下剤を服用し、排便コントロールをしている。表情や動きで排便サインを読み取り、ほとんどの利用者が失敗することなくトイレでの排便ができています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2、3日に1回のペースで入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否の利用者にも声掛けの工夫をし、スムーズに入浴できるよう支援している。入浴予定でなくても、状況に応じて柔軟に対応している。	現在入浴を拒否する利用者はなく、全員週に2、3回入浴している。入浴を嫌がっても入浴後は満足するので言葉かけを工夫し、入浴につなげている。失便時や、散髪をしたときなどは、優先的に入浴するようにしているほか、希望に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを考慮し、昼夜のメリハリをつけて、昼夜逆転の生活にならないよう支援している。日中は思い思いの場所でテレビを見たり、午後は居室で休む利用者もあり、ストレスにならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケースと服薬専用ファイルに説明書を保管し、変更があればその都度追加している。副作用や容量用法などの気を付けることは申し送りノートに記載し、職員間で理解できるようにしている。気になることは配達時に薬剤師に聞くようにしている。飲み忘れがないよう、チェック表を用いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や壁画づくりを楽しんだり、トランプ遊びなども取り入れている。花の水やりや畑の世話なども職員と一緒にいき、天気の良い日には地域を車いすで散歩するなどして、気分転換を図っている。日光浴も行い、秋祭り前には歌の練習を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日にはできるだけ屋外に出て、周辺を散歩したり、近所に花を見に行ったり、個別ドライブの支援などを行っている。自宅周辺への外出支援も行い、顔見知りの人に声を掛けてもらうことがよくある。	気候の良い時期には、毎日散歩するようにしている。町筋を散歩し、利用者は住民と顔見知りになっている。車いすの利用者も散歩し、雰囲気を楽しんでいる。季節に応じて、ひな祭り、桜、アジサイ、菊等の見物にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て管理者が小遣いを預かり、管理している。買い物に出かけるときには、自分で支払えるようお金を渡し、職員が付き添って、買いたいものを自分で選び購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日定期的に電話がある家族や、四季折々の飾りを手紙で送ってくる家族もあり、その都度本人に渡して代読している。担当職員にもよく手紙がある。利用者が家族に電話をしてほしいと言われるときには、こちらから電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には花や置物を飾り、四季が感じられるように工夫している。壁には利用者と協力して制作した壁画を定期的に飾って、居心地の良い空間づくりに努めている。	利用者と一緒に、壁の装飾を四季に応じて変えている。エアコンを嫌う利用者もあり、窓の開閉で室温等に留意し、快適に過ごせるようにしている。居間の柱にはクッションを巻いて、ぶつかっても安全なようにしている。季節感を出すため、居間の花瓶には職員が自宅の花木を活けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やベランダなどにも椅子を配置し、利用者いつでも屋外の景色を楽しんでもらえるようにしている。ホールにはソファを配置し、カラオケなどを楽しむときには、みんなで寛げる空間が確保できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、タンスなど、できる限り自宅で使用していたものを配置し、壁には家族の写真や自分でつくった壁飾りを飾ったり、仏壇を持ってきている利用者のお供えの支援も行っている。	利用者は、それぞれの好みに応じて壁に飾り物を取り付け、テレビ、筆筒、仏壇等を持ち込んで、落ち着ける空間をつくっている。職員は、利用者の安全が保てるよう、家具の配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前を書くことで、自分の部屋と認識してもらっている。シルバーカー歩行の利用者も多く、できるだけ自立できるよう支援している。歩行時には行先を確認し、絶えず見守り支援を行って、安全確保に努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない